



つなぐ

+believe

Vol.5 2016年

思いをつなぐ

願いをつなぐ

命をつなぐ

地域医療をつなぐ



CONTENTS

附属病院	P1	地域医療を見据えた大学病院の役割。	地域医療センター センター長 谷川 昇
	P2	私立大学だからこそできる地域への貢献。	附属病院 病院長 澤田 敏
	P3	研究マインドを若い人たちにつなげたい。	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授 岩井 大
	P4	なぜ肺がんは増え続けるのか。	呼吸器外科 主任教授 村川 知弘
	P5	麻酔科医はクールでタフ、目立たないことを誇りにする。	麻酔科 主任教授 上林 卓彦
	P6	実現したいのは小児麻酔という手技の確立と日帰り麻酔の普及。	麻酔科(小児麻酔担当) 診療教授 大井 由美子
	P7	「がん治療緩和センター」を継承した「がんセンター」オープン。	がんセンター センター長 薦 幸治
	P8	遺伝学的な情報の特性を考慮しながら、段階的に遺伝医療をスタート! 「臨床遺伝センター」オープン。	臨床遺伝センター センター長 岡田 英孝
総合医療センター	P9-11	「関西医科大学総合医療センター」新本館オープン。	総合医療センター 病院長 岩坂 壽二
	P12	心臓外科医の醍醐味とは?	心臓血管外科 診療部長 診療教授 細野 光治
	P13	私たちが大切にしていること。	呼吸器外科 診療部長 金田 浩由紀
	P14	他の診療科にはない神経内科の醍醐味とは。	神経内科 診療部長 中村 正孝
香里病院	P15-16	「訪問看護ステーション・香里」オープン。	管理者 保健師 豊高 英代
	P17	小児科一般外来を担当しています。	小児科 病院教授 谷内 昇一郎
天満橋総合クリニック	P18	各専門医がそろった都市型の総合クリニック。	外来統括部長 北尻 雅則

私たちが考える「つなぐ」という思い。

私たちは地域医療を支えるみなさまとの相互理解を深め、より強固に、よりスムーズに医療連携を行っていくために、関西医科大学の附属4施設（関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、関西医科大学香里病院、関西医科大学天満橋総合クリニック）の今をお知らせするとともに、みなさまのご意見を広く拝聴していきたいと考えております。本誌のタイトル「つなぐ+believe」には、医療をつなぐ、命をつなぐ、願いをつなぐ、そのためには医療機関同士の信じあえる心が支えとなるという思いを込めています。

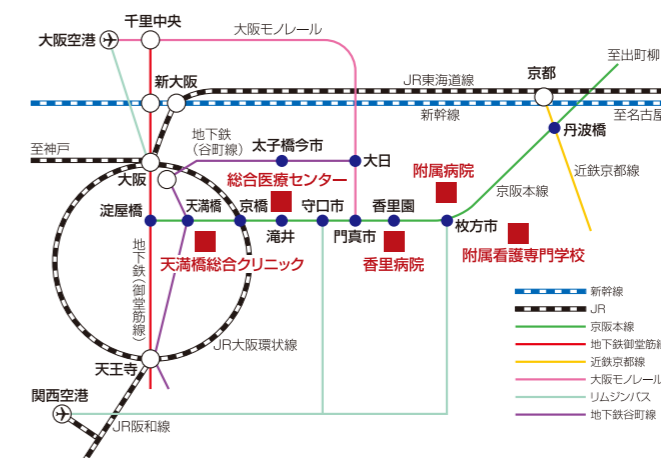


アンケートへのご協力ありがとうございました。

2015年春夏号でお送りさせていただいたアンケートに、計40件のご回答をいただきました。これからの「つなぐ+believe」の編集の質的な向上に役立たせていただきます。ご協力、本当にありがとうございました。



関西医科大学 地域医療センター



関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101(代) <http://www.kmu.ac.jp/hirakata>
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局) TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001(代) <http://www.kmu.ac.jp/takii>
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15 地域医療連携部 病診連携課 TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321(代) <http://www.kmu.ac.jp/kori>
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45 地域医療連携部 病診連携課 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260(代) <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi>
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル3階) TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827

地域医療センター センター長就任

平成28年 4月1日

地域医療を見据えた 大学病院の役割。

日本は諸外国にも例を見ないスピードで、高齢化が進んでいます。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、3人に1人が高齢者です。この年を目前に地域包括ケアのシステム整備が急ピッチで進められています。高齢者が住み慣れた地域と自宅で自分らしい人生を最期まで送ることができるといふ仕組みづくりです。住まい、医療、介護、予防生活支援が一体的に提供されるシステムの構築が国を挙げて進められています。構築の年まで残り10年を切った今、関西医科大学地域医療センターのセンター長として拝命を受けた重責を痛感しております。



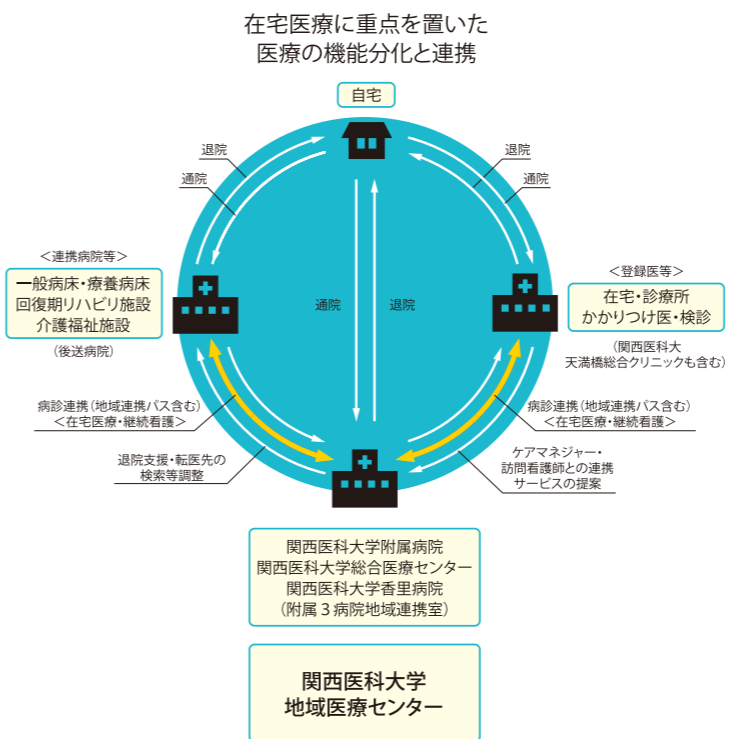
地域医療センター
センター長
谷川 昇

地域と連携し共に歩む ことこそが私たちの 存在価値。

超高齢化社会を迎えるとはいえ、高齢者だけの医療を中心に据えるわけではありません。若い人にとつても、将来をこの地域で安心して過ごせる環境やシステムをいかに支えるかが大切だと考えています。そのために必要なのは各機関との連携です。とくに当病院は、病診連携、病病連携に重点を置いてまいります。

関西医科大学の附属病院 ならではの役割。

私たちは急性期病院として重篤な患者さんの治療を長期化させずに、できるだけ負担の少ない治療を行うことで、入院日数を少なくし、地域の診療所や病院へ戻すという連携を目指しています。そのために救急医療を含め、高度先進医療の質をますます高めていけるよう、医療技術と設備・施設の向上に努めています。地域の方たちが利用しやすい配慮はもちろんですが、全国から関西医科大学の附属病院でしかできない医療を求めて患者さんが来る。そんな高度な医療を目指しています。私たち地域医療センターは、その窓口にもなっていきたいです。



地域の先生方に選んでいただける病院へ。開業医の先生や診療所、医療施設の方たちに「関西医科大学の病院を紹介して良かった」と思っていたら、私たちが最大の使命です。それは患者さんにご満足いただけること、いい医療とサービスが提供できることはもちろんですが、患者さんが「いい先生と出会えた。やさしい看護師さんだった」そう思っていただけることが大切です。患者さんもご家族も自分が出会った人で、病院を評価します。同じように地域の先生たちは私を見て評価されると思っています。だからこそ、いろんな場で地域の方たちと接す

る機会を増やし、顔と顔を合わせて、少なくとも誤解のないように、少しでもご理解いただけるように「選んで良かった」という成果をつくっていきたいと思っています。

谷川 昇 (タニガハ シノブ) ノボル
プロフィール
● 学歴 昭和60年3月 鳥取大学医学部 卒業
平成7年5月 博士取得 三重大学大学院入学
● 職歴 平成8年5月 琉球大学医学部 講師
平成8年10月 関西医科大学放射線科学講座 講師
平成12年1月 関西医科大学放射線科学講座 主任教授
平成13年1月 テキサス大学 MD Anderson Cancer Center 留学
平成21年9月 関西医科大学放射線科学講座 准教授
平成24年4月 関西医科大学放射線科学講座 主任教授
平成28年4月 関西医科大学 地域医療センター センター長
● 所属学会等役職 日本医学放射線学会 代議員・専門医
日本Ⅰ日学会 理事・専門医
日本画像医学学会 評議員

「関西医科大学附属枚方病院」から

「関西医科大学附属病院」へ

平成28年
4月1日



関西医科大学
附属病院 病院長
澤田 敏

名称変更の経緯について。

本来、大学の附属病院には地名をつけないのですが、枚方の地に本院として移転した10年前、当時、滝井地区にあった旧大学附属病院と区別し、また枚方市へ移転したことを強調する意味で「関西医科大学附属枚方病院」と命名しました。この時、滝井地区に残った病院は分院として「関西医科大学附属滝井病院」と改名されています。この関西医科大学附属滝井病院が、本年5月1日より新たに「関西医科大学総合医療センター」として生まれ変わることに、関西医科大学附属枚方病院の病院名から「枚方」の文字を取り除いても「関西医科大学附属滝井病

「私立大学」だからこそできる 地域への貢献。

当病院の特性をひとりでいうと「私立」であるということ。つまり国立とは違うということです。地域の皆様に認めていただければ、存在できない病院なのです。国立の場合は患者さんが来なくても、成り立ちます。極端に言うと、医師は研究を最優先に出来るということも知れません。医師のための病院か、患者さんのための病院か、それほどの違いがあります。患者さんは地域にいらつしやいます。その地域の医療や介護を支えている方たちに信頼されなければ、私たち私立の大学病院は成り立ちません。いかに優れた設備や技術を持った医師がいても、存在価値はありません。「頼れるいい先生がいる。困ったときはいつも助けてくれる。」患者さんだ

「私立大学」の特性を 最大限に生かして。

「財の独立なくして学の独立なし」という言葉を、私たちはよく使います。財の独立があれば、私たちが必要だと考える医療分野を自由に設置できます。これは国立ではあり得ないことです。新たに講座を設けたり、そこに診療教授を招き入れ、最新設備を導入することも自由にできます。それを患者さんのために必要だという基準だけで、決断できるということです。最近の「センター化」の実現もそのひとつです。2015年4月以降に「小児医療センター」や「腎センター」を設置し、また「心臓血管病センター」は「ハートセンター」と名称変更しました。この春からは「がんセンター」や「臨床遺伝センター」がスタートしました。診療科の枠を越えて医師・看護師が連携を図り、効果的な医療を提供するとともに、高い専門性と実績を備えた多数の人材を診療教授として迎えました。ハード面でも診療機器の更新や最新設備の導入に取り組んでいます。

特定機能病院としての
高度な医療レベル。

地域の医療と患者さん目線を大切にするとともに、私たちはその一方で「特

定機能病院」として我が国の医療界をリードする使命を負っています。そのため年間70件以上の英文による研究論文の発表が国から義務づけられています。当病院には約320名の医師がいますが、4〜5名のチームでひとつの論文を完成させるということは、ほぼ全員が毎年研究論文を作成しなければなりません。医療と研究、そして隣接する医学部や附属施設とのコラボレーションを密にし、医学教育施設、医学研究施設、診療施設としての総合力を発揮しながら、本来の使命である大学附属病院としての医療の充実と発展に努めていきたいと考えています。



澤田 敏 (サワタ ケンジ)
プロフィール

- 学歴 昭和45年3月 関西医科大学 卒業
- 昭和53年12月 医学博士 関西医科大学の学位を授く
- 職歴 昭和54年9月 スウェーデン、ウツラ大学放射線診断医 留学
- 昭和55年3月 スウェーデン、ウツラ大学放射線診断医 留学
- 昭和63年9月 米国テキサス大学、MD Anderson 病院 留学
- 平成元年1月 鳥取大学医学部附属病院放射線部助教授
- 平成8年4月 琉球大学医学部放射線科学講座主任教授
- 平成10年12月 関西医科大学放射線科学講座主任教授
- 平成24年4月 学校法人関西医科大学 常務理事就任
- 平成26年4月 関西医科大学附属枚方病院 病院長就任
- 所属学会等 日本医学放射線学会 専門医
- 日本消化器病学会 認定医
- 日本血管造影・インターベンショナルラジオロジー学会 指導医
- 臨床練習指導医

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授 就任

平成28年 6月1日



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
主任教授
岩井 大

動物センターと 総合医療センターでの生活。

この度、関西医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の主任教授を拝命いたしました。10年勤務いたしました総合医療センターでは、岩坂院長をはじめ皆様から激励を頂戴し、本当に感謝しています。またこれまで、当講座の歴代の教授である故熊澤教授、山下教授（現理事長）、友田教授（現学長）からは様々なご指導を賜りました。滝井に本院があった頃、旧第一病理学講座（池原教授・稲葉助教授、当時）にてマウスを使った基礎研究を一からご教示賜り、以来、臨床を行いつつこ

れを続けて参りました。自宅と動物センターがどちらも滝井にあるからできた生活のリズムのようなものでした。

研究マインドを 若い人たちにつなげたい。

しかし、3年前の新学舎完成を機に動物センターが枚方に移り、実験が随分負担になった上、その少し前に総合医療センターの診療部長を拝命し一層忙しくなり、研究はもう断念しようと思いつめたこともあり。しかし、名誉なことではあります。3年間の科研費が終わりもう止めようと思っても、また次の3年間の科研費が参ります。この年齢になって休日にとりて実験をしている臨床医がいるだろうかと思いついていました。家族のサポートにも感謝ですが、ブレインの稲葉先生（前述）の多大なるご支援にて、何とか研究を続けることができました。しかるに、今回の人事は交通の不便を察したマウスたちが、私を呼び寄せてくれたのかもしれない。今年も科研費を頂きましたので、さらに3年間、マウスの研究をすることに なります。老人性難聴治療の研究ですが、これからはひとりではなく、若い

先生方に私の研究や研究マインドを引き継いでいきたいと存じております。
**患者さんと医師、
両方のQOLをアップさせる。**

宴会のシーンを思い浮かべてください。

- ・食（る）唾（液）唾（液）腺（嚙）嚙（口）腔（嚙）嚙（下）咽（頭）
 - ・しゃべる（発）声（喉）頭（構）音（口）腔（咽）頭
 - ・聴く（聴）覚（外）耳（中）耳（内）耳
 - ・おいしい（味）覚（口）腔
 - ・いい匂い（嗅）覚（鼻）副（鼻）腔
 - ・笑顔（顔）面（神）経
 - ・元気（甲）状（腺）
 - ・あ、ピアスははずれた。電話した（耳）介（の）触（覚）大（耳）介（神）経
 - ・酔ってフラフラ（平）衡（覚）内（耳）
 - ・寝てしまった（い）び（き）・睡（眠）時（無）呼（吸）症（候）群
- こうした感覚や機能（障害）は、すべて耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域に属します。この領域は皆さんの楽しいひとときに深く関与し、さらに言えば耳鼻咽喉科・頭頸部外科医は、人のQOL（生活の質、クオリティ・オブ・ライフ）を高め、維持する役割に誇りを抱いています。
- 例えば、腫瘍の手術では、腫瘍を切除することが第一目的ながら、機能を温存、あるいは、回復させるのも重要な使命です。我々は、耳下腺良性腫瘍の切除術で、術後の顔面神経麻痺や大耳介神経麻痺の確率を他施設での4分の1まで下げてきました。下咽頭がんの手術（咽喉食摘出術）では、咽頭と頸部食道とが離れますが、筒状である空腸を採取してここにはめ込みます（空

呼吸器外科 初代主任教授 就任

平成28年 4月1日



呼吸器外科
主任教授
村川 知弘

胸部心臓血管外科から 分離独立した診療科。

昨年春に着任したのは胸部心臓血管外科講座に含まれる呼吸器外科を担当する診療教授でした。それがこの春、心臓外科から呼吸器外科が分離独立し、大学の講座として開設されると同時に診療科も独立し、その診療部長に私が就任いたしました。心臓外科と呼吸器外科は胸部というところで同じ科に属していたのですが、本来、扱う手術の中身はずいぶん違います。

例えば心臓外科は大動脈や僧帽弁の手術、バイパスの手術が中心です。呼吸器外科は主に肺がんの診療が中心で、

なぜ肺がんは 増え続けるのか。

学術的にはオンコロジー（腫瘍学）の領域です。オーバーラップするのは、大血管合併切除や肺移植といった手術に絞られます。移植手術となると人工肺を使ったりするので、心臓外科と重なるのですが、最近では専門分化が進み、胸部外科講座は心臓外科と呼吸器外科に分かれる傾向にあります。こうした大学病院の傾向に対応して、関西医科大学でも二分化されたと理解しています。

国立がん研究所が発表した平成27年のがん罹患数予測は大腸がんに次いで肺がんが2位。しかも罹患率は他のがんを凌いで圧倒的に増えています。一般的には喫煙者が減っているのに、肺がんは減るのではと推測されがちですが、喫煙との因果関係がはっきりしている肺扁平上皮がんや小細胞肺がんは減っても、因果関係が認められない肺腺がん等は増えています。とくに喫煙経験のない20代30代の女性に肺腺がんが多く見られます。当呼吸器外科の手術件数を見ると、前年比15%強。国立がん研究所の一般的ながん罹患数の増

加率が前年比10%強でしたので、呼吸器外科の手術数はそれを超えたこととなります。とくに完全鏡視下手術は、昨年度からはじめて導入した手技でしたが、最も多い手術例になりました。

呼吸器外科 手術実績	平成26年度	平成27年度
肺がん	127例	129例 (114例完全鏡視下手術)
気胸・嚢胞性肺疾患	25例	38例
転移性肺腫瘍	22例	30例
縦隔腫瘍	16例	18例
手術件数	218例	258例

新たな課題は キャンサーボードの導入。

当病院は「がん診療連携拠点病院」であり、今春より新たに「がんセンター」もスタートしました。キャンサーボードの導入が計画されていますが、私たち呼吸器外科の診療チームにとっても、キャンサーボードが緊急の課題になりつつあります。それは他の臓器から肺へ転移したがんの治療件数が増え、他にも少ないからです。肺に移転した場合は切除しないと完治しません。だからこそ、一緒に話し合う機会をつくりたいと考えています。キャンサーボードとはがん患者の病態に応じて、より適切ながん医療を提供できるように診療科の垣根を越え、各臓器内科医師、

腸の上腸間膜動静脈を、頸動静脈やその分枝につなぎ血流を維持します。術後の食物摂取に問題はありませんが、進行した喉頭がんではがんを喉頭ごと切除しますが、術後の「無喉頭発声法」を見直し、従来の食道発声法（発声獲得率30%）に対しシャント発声法（発声獲得率90%）を開発しています。ところで、患者さんのQOLだけではなく、忙しく遅くまで働く教室員のQOLにも目を向けるべきではないでしょうか。彼らの仕事効率と生産性を改善して、よりモチベーションの高い、また、教職員が楽しそうだから我々も入局したいなど学生や研修医に思わせる魅力ある教室にできればと考えております。

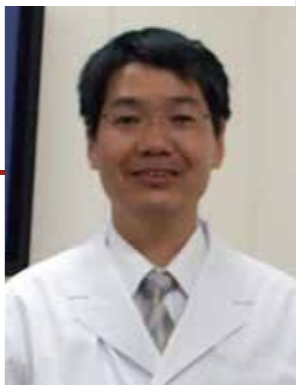
- 岩井 大（アワイ ヒロシ）
プロフィール
●学歴
昭和58年3月 関西医科大学 卒業
昭和63年5月 医学博士（関西医科大学）
●職歴
昭和63年6月 米国立マサチューセッツ大学留学
平成元年6月 米国立立南フロリダ大学留学
平成6年4月 大阪府済生会野江病院耳鼻咽喉科医長
平成15年9月 付属洛西コータウン病院耳鼻咽喉科部長
平成23年4月 関西医科大学耳鼻咽喉科学講座准教授、附属滝井病院（総合医療センター）病院教授、診療部長
平成28年6月1日 関西医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科主任教授
●所属学会等役職・認定医・指導医
日本耳鼻咽喉科学会（代議員、専門医、指導医）
日本頭頸部外科学会（評議員、がん専門医、暫定指導医）
日本口腔・咽頭科学会（評議員、編集委員）
日本唾液腺学会（理事）
日本気管食道科学会（認定医）
日本がん治療学会（認定医、暫定教育医）
日本甲狀腺外科学会（専門医）
独立行政法人日本学術振興会（審査委員候補者）等

腫瘍内科医師、各臓器外科医師や看護師、ソーシャルワーカーなど、患者さんを取り巻く医療スタッフが、一堂に会して治療方針をカンファレンスすることです。この機会を通じて、低侵襲による完全鏡視下手術等の有効性を知っていただくことも今年度の新しい課題にしています。

- 村川 知弘（ムラカワ トモヒロ）
プロフィール
●学歴
平成4年 東京大学医学部医学科 卒業
平成14年 東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 修了
●職歴
平成4年 東京大学医学部附属病院外科研修医
平成14年 東京大学医学部附属病院呼吸器外科助手
平成22年 東京大学医学部附属病院呼吸器外科講師
平成27年 関西医科大学附属病院 呼吸器外科診療教授
平成28年4月 関西医科大学呼吸器外科主任教授
●主な資格
外科専門医
呼吸器外科専門医
所属団体
日本外科学会
日本胸部外科学会
日本呼吸器外科学会
International Association for the Study of Lung Cancer Society of Thoracic Surgeons（米国）
●専門・実績
呼吸器外科専門医です。前任の齊藤幸人教授の定年退官のあとを引き継ぎ、平成27年4月1日付けで関西医科大学附属病院へ診療教授として赴任してきました。呼吸器外科医の担当する領域は心臓・食道を除く胸郭内臓器の手術であり、特に肺がん手術の担当が重要な役割となります。私は現代の呼吸器外科専門医として、完全鏡視下手術のような低侵襲手術から拡大手術まで幅広く対応してきました。約120万人の人口を抱える北河内医療圏の呼吸器外科診療の一助となるべく尽力したいと存じます。

麻酔科 主任教授 着任

平成28年 4月1日



麻酔科 主任教授
上林 卓彦

バラエティに富んだ手術に対応。

関西医科大学の手術内容は、とてもバラエティに富んでいると思います。地域の医療にも重点が置かれており、とくに救命救急センターとしての役割の強化には積極的に取り組んでいます。そのため、すぐに手術が必要な患者さんが運ばれてくるのが非常に多く、麻酔科はその手術すべてに全力で対応しています。私がこれまでいた大阪大学病院の場合は、移植手術や重症心不全といった心臓血管外科が中心で、特殊な症例が多かつ

たように思います。

関西医科大学のいいところは、あらゆる場面で緊急対応の経験が豊富であることもかもしれません。患者さんのためにいちばんいい選択を瞬時に判断して、ルールや常識に縛られずフレキシブルに対応できる先生が多いと思います。一刻を争う手術があったとき、麻酔科医が足りないというケースをよく耳にします。関西医科大学の場合は初期研修の中に数ヶ月間の麻酔科研修が組み込まれていて、どうしても足りないときに麻酔の経験のある外科系の先生に手を貸していただくなど、現実的に即した対応が可能になっています。

麻酔科医はクールでタフ、目立たないことを誇りにする。

患者さんの目から見ると、麻酔科医の存在はほとんど印象に残らないと思います。患者さんを手術室でお迎えして、全身麻酔であれば

眠っていただいて、目覚めたときには、もう麻酔科医はいない。麻酔科医はファイナルプレーを見られてはダメだと、研修医時代に教えられたことがあります。自分の予想もなかったところに球が飛んできて、それに飛びついて捕球したところを、観客からすごい拍手で賞賛されるようなファイナルプレーをしてはいけない。あらかじめ予測しながら難しい球が飛んでくるところに身体を寄せて、たまたまそこに守っていたような印象を与えて、難なく処理していく。何か起こりそうなことを予想して、それに対して十分な準備をし、構えて何事もなかったように対処して、患者さんを手術室から送り出す。それが麻酔科医の仕事です。それをとても生きがいに感じる先生もいるし、逆に患者さんとの繋がりを求めて、麻酔科医を数年

奥行きのある技術が誇りになる

やりがいのある仕事です。私の場合は研修医の頃に培った麻酔科医独自の技術的な奥行きを

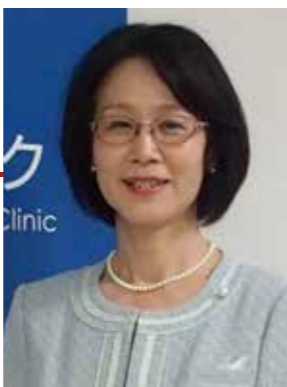
さととりつかれ、今日に至っています。麻酔科医の仕事場は手術室の中にあります。いのちと常に向き合う仕事です。全身麻酔の際は人工呼吸器で患者さんの呼吸管理を行います。この技術を重症管理に応用したのが集中治療です。認定医の資格が必要ですが、大学病院では集中治療を麻酔科医が中心になって行うケースが多くなっています。また周産期管理でも麻酔科医が痛みを抑える役割を果たす無痛分娩、胎児が急変したときには緊急帝王切開の管理を担当する一員として重要な役割を担います。目立った存在ではありませんが、さまざまなステージで奥行きのある技術が生かせる魅力的な仕事です。

上林 卓彦(カミヤシ タカヒコ)プロフィール

- 学歴 昭和62年3月 大阪大学卒業
- 平成5年3月 医学博士(大阪大学)の学位を授く
- 職歴 平成5年7月 大阪警察病院麻酔科副医長
- 平成7年12月 米国立サンフォード大学麻酔科に留学
- 平成10年7月 国立循環器病センター麻酔科
- 平成11年7月 大阪大学医学部麻酔科学教室 助手
- 平成23年4月 大阪大学大学院生体統御医学講座(麻酔科学) 講師
- 平成26年3月 大阪大学大学院生体統御医学講座(麻酔科学) 准教授
- 平成26年4月 関西医科大学麻酔科学講座主任教授
- 所属学会等役職 日本麻酔科学会(代議員、指導医) 日本ペインクリニック学会(専門医)

麻酔科(小児麻酔担当) 診療教授 着任

平成28年 1月1日



麻酔科(小児麻酔担当) 診療教授
大井 由美子

不思議なご縁を感じています。

地元三重県から出たことのない私が、関西医科大学附属病院に着任させていただききっかけになったのは、プライベートな環境の変化がふたつ重なったからです。ひとつは母の初盆を迎えた頃にお話しをいただいたこと。もうひとつは自身のがん精査で陰性の結果が出たことです。母の出来事は新しい自分を見つめ直す機会になり、不安だったがん検査の結果は、新たな命をいただいたような気持ちにしてくれました。このふたつの出来事が新たなステージ

に踏み出そうというエネルギーを与えてくれたような気がします。加えて放射線科の医師でもある夫が全力で応援してくれたことが大きなチカラになり、地元を離れることができなかった私の背中を押してくれました。三重大学で師事し、尊敬していた故・宗行万之助名誉教授が、本学麻酔科学講座の初代教授と伺っております。今となっては、恩師に導かれて辿り着いたような不思議なご縁を感じています。私が三重大学の麻酔学教室に入局した当時は、宗行教授のもとにさらに2名の医師が当病院より講師として赴任されていて、さまざまな指導をしていただいたことを思い出します。

成人の麻酔と小児麻酔とはまったく違う。

小児は単に大人を小さくしただけではありません。例えば2キ口ほどしかない未熟児の麻酔を大人と同じように行うことはできません。その違いは成人内科と小児内科の違いほどあると言えるでしょう。新生児の麻酔はとくに慎

重に行わないと容易に低酸素血症に陥ってしまいます。また、手に力を加えただけで、皮膚や粘膜に傷をつけたりすることがあります。優しくソフトに、というのが鉄則です。手術や治療をすることで、小児の心の成長にキズを与えないことも大切です。その気遣いができるかどうか、小児麻酔の専門医が必要理由のひとつです。手術室に入るのにお母さんと離してしまう母子分離は、こどもに恐怖感を抱かせます。それが後々まで心の傷となって残ってしまうこともあるのです。それを避けるために、お母さんと一緒に手術室に入ってもらって、なるべく怖い思いをさせないよう気をつけます。その気遣いはお母さんに対して同じです。お母さんが恐いと思うとお子さんにもその気持ちが伝わるからです。

なぜ全身麻酔をするのか、全身麻酔がお子さんにとってどんな負担を与えるのか、副作用はないかなど、お母さんが抱かれる不安をあらかじめ解消し、ご理解いただくことも大切に行っています。

実現したいのは小児麻酔という手技の確立と日帰り麻酔の普及。

関西医科大学附属病院は、これまで小児の麻酔は麻酔科医が担当してまいりました。小児麻酔を専門に行うスペシャリ

ストというのは私が初めてのようです。大病院での小児麻酔は、分娩直後のハイリスクな極小未熟児から、ごく健康な幼児まで多岐にわたります。高度な専門性が求められるのはもちろんのこと、周術期の小児の安全と快適さも求められます。これらを実現していくために、小児外科、小児科、産科を軸とした医療スタッフとの連携が大切であり、より良いコミュニケーションを図りながら小児麻酔という専門分野の確立を図っていきたくと思っています。また小児の日帰り麻酔、女性医師の育成支援など、これから進めていきたいことに心ときめくとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いでいます。

大井 由美子(オオイ ユミコ)プロフィール

- 学歴 昭和59年3月 三重大学医学部卒業
- 同 4月 三重大学医学部大学院入学
- 平成3年6月 医学博士(三重大学)の学位を授く
- 職歴 昭和59年5月 三重大学医学部麻酔学教室入局
- 平成2年8月 国立津病麻酔科開設
- 平成5年5月 国立津病麻酔科医長
- 平成10年7月 国立三重中央病院(現国立病院機構三重中央医療センター)麻酔科医長
- 平成11年4月 国立三病麻酔科開設
- 平成26年1月 関西医科大学麻酔科学講座小児麻酔担当診療教授
- 所属学会等役職 日本麻酔科学会(認定医、専門医、指導医) 日本小児麻酔学会(評議員、認定医) 日本ペインクリニック学会(専門医)

「がん治療・緩和センター」を継承した がんセンターオープン

平成28年 4月1日



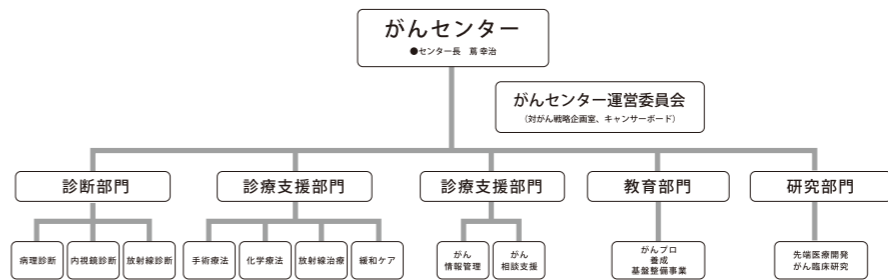
がんセンター
センター長
薦 幸治

「がん治療・緩和センター」を引き継ぎ、新たな役割を担ってスタート。

「がん治療・緩和センター」でこれまで行ってきた化学療法と緩和ケアを同時進行的に行うという治療の中心軸は変わりません。その上でより横断的ながん治療ができる仕組みをこれからは作り上げていきたいというのが「がんセンター」と改名し、新組織を立ち上げた今回の意図と言えるでしょう。優れた人材やスタッフの増員も図り、機能的な拡がりがない体制として整いつつあります。

最新の医療技術をも有機的に活用すること。

私は関西医科大学の出身ですが、13年間ほど東京のがんセンターに在



籍し、昨年の春、こちらに戻ってきました。がんの征圧という内なる思いを持ち続けている人間のひとりでもあります。組織を変えるのはヨシモトノ、ワカモノ、バカモノという3つの要素だといわれますが、現在の教授陣の中ではそれが揃っているのが、今回の任命をいただいたように思っています。

がん治療の技術は毎年進歩していますが、大切なのは既存のチカラをどう有機的に活用していくかだと考えています。ひとりの患者さんに対する治療方針を5部門が協力しながらキャンサーボードの場をもち、スビーデーに作り上げていく。そしてその成果を新たながん征圧の戦略に反映していく仕組みが求められています。それががんセンターの役割だと思っています。

薦 幸治の「コトバ」
プロフィール

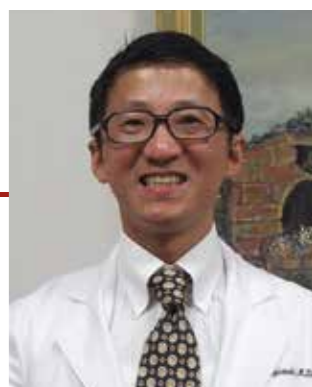
- 学歴・職歴
平成8年3月 関西医科大学 卒業
平成9年4月 聖路加国際病院 内科系専修医
平成10年4月 関西医科大学大学院 病理学専攻 講師
平成14年6月 国立がんセンター 東病院 チーレジネラト
平成15年6月 国立がんセンター 研究所 病理部
平成20年6月 M.D. Anderson Cancer Center 病理部
平成22年4月 国立がん研究センター 中病院 病理科 部長
平成27年4月 関西医科大学 病理検査科 主任 教授
平成28年4月 関西医科大学 附属病院 がんセンター
センター長
- 所属学会
日本病理学会 日本臨床細胞学会 日本臨床検査医学会
日本肺癌学会



副センター長
中村 聡明

点から線へ、線から面へ放射線科の特性を生かした横断的な治療を。

放射線科はもともと各診療科に偏らない、すべての分野に関わる治療です。これまでも各科別のカンファレンスにかなりの時間を割いてきました。がんセンターができることによって複数の科が集まって行うキャンサーボードという機会が増えてくると思います。それは各診療科だけでは収まらない患者さんが増えてきているからです。具体的には複数の臓器にがんが見られるケースです。のがんを優先的に治療するか、どのような治療計画を立てるかを話し合う機会が増えてきました。さらに主治医だけでなく、患者を取り巻く医療スタッフも積極的に参加する場を増やしていきたいと考えています。そこに放射線科の担当医がハブとして関わっていくのががんセンターにしていきたいと思っています。



副センター長
柳本 泰明

地域の先生や患者さんとのダイレクトな関係を大切にしていきたい。

専門は消化器外科です。内視鏡手術を含む外科手術医であるとともに化学療法も達人であると自負していますので、がんの3大治療のふたつを専門にしているといえます。さらに緩和ケアにも深く関わってきました。当病院初の緩和ケアチーム「PEACE」を2009年に立ち上げた中心メンバーのひとりであり、記念すべき第一回緩和ケア研修会の企画責任者を務めさせていただきました。地域連携部も兼任しています。

大学病院の医師としては異色といわれるのですが、地域の診療所や病院、看護ステーションとのダイレクトな交流を大切にしています。実際に100件以上の施設にお伺いして、交流を深めてきました。こうした関係を通じて、病院内の各診療科の先生たちとも垣根を越えた繋がりをつくることができましたように思います。

がんセンターを地域に開かれた存在とするために、その機能をさらに高める努力を惜しまない覚悟でいます。

遺伝学的な情報の特性を考慮しながら、 段階的に遺伝医療をスタート！ 臨床遺伝センターオープン

平成28年 5月1日



臨床遺伝センター
センター長
岡田 英孝

遺伝医療の実現に向けて。

近年のゲノム解析技術の進歩により、さまざまな疾患の原因が遺伝子のレベルで徐々に明らかになりつつあります。ハリウッドのトップ女優が予防的乳房切除術を受けたことが世界中のメディアを通じて報道され、遺伝性腫瘍が社会的に認知されるようになりました。このように遺伝情報に基づく医療は、身近なものとなり、さまざまな診療の場においても重要になってきています。しかし、遺伝情報

は、一生涯変わらない、血縁者同士で一部共有しているなどの特徴があることから、遺伝子の検査の実施には十分な配慮が必要となります。

臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを提供。

遺伝について患者さんやご家族は、さまざまな悩みや不安を抱えていることもあります。遺伝や遺伝子の検査について、一人ひとりに合った情報を分かりやすくお話し、心理社会的な側面をふくめて、理解と納得を援助することが遺伝カウンセラーの役割です。また、遺伝情報は、時に家族間で情報を共有する必要があることから、患者さんのみならず、支えているご家族の相談にも対応いたします。そこで、各科のニーズに応じて遺伝医療を適切に提供し、各科の診療を円滑にするため、臨床遺

周産期遺伝
カウンセリング外来を
先行実施。

伝専門医および認定遺伝カウンセラーによる各科と協力した診療、遺伝カウンセリングを行うことが重要となります。当センターでは、学会認定の認定遺伝カウンセラーが常勤していますので、臨床遺伝専門医と協働し、十分な時間をかけ、患者さんやご家族にとって最良の意思決定ができるよう、丁寧な遺伝カウンセリングを提供することを心がけています。

出生前診断とは、生まれる前の赤ちゃんの発育や病気の有無を検査し、診断することです。広い意味においては、妊婦検診の超音波検査も含まれますが、遺伝学的な検査としてのNIPT（母体血胎児染色体検査）や妊娠初期コンバインド検査、羊水検査などについて遺伝カウンセリングを行っています。出生前診断は、生命の尊厳にかかわる倫理的問題があることから、より慎重な対応が求められています。また、「子どもへの遺伝が心配」「なんとなく遺伝のことが気になる」など、いろんな疑問や不安を抱えている方も多いと思います。



周産期GC外来のパフレット

そこで、出生前遺伝学的検査を検討しているご夫婦に向けて、十分に時間をとり、ご理解いただこううで意思決定ができるよう周産期遺伝カウンセリング外来を開設しました。お気軽にご相談ください。

岡田 英孝（オカダ ヒテタカ）
プロフィール

- 学歴
平成5年 関西医科大学 卒業
- 職歴
平成5年 関西医科大学産科科学教室に入局
平成7年 同大学助手
平成13年 IVF大塚クリニック 医長
平成15年 オーストラリアフリンヘンリー医学研究所に留学
平成17年 兵庫医科大学臨床遺伝部非常勤講師
平成17年 関西医科大学大学院 医学研究科 科学講座主任教授に就任
平成25年 4月1日付で関西医科大学産科科学部 人科学講座主任教授に就任
平成28年5月 臨床遺伝センターセンター長
- 所属学会等役職
日本産科婦人科学会（産婦人科専門医）
日本産科婦人科学会（産科専門医）
日本生殖医学会（生殖医療専門医）
日本受精臨床学会（幹事・評議員）
日本受精臨床学会（臨床遺伝専門医）等
人類遺伝学会（臨床遺伝専門医）等



●正面玄関のステンドグラス

シンボルとなるフクロウと副章をあしらったステンドグラス。信頼できる医療技術で患者さんをあたたかくお迎えしたいという思いを象徴しています。



大切な人を
受診させたい
病院へ



関西医科大学
総合医療センター病院長
岩坂 壽二

関西医科大学総合医療センター
新本館オープン
(旧附属滝井病院)

平成28年 5月6日

2013年に始まったリニューアル計画の環として、5月1日(日)付で、名称を「附属滝井病院」から「関西医科大学総合医療センター」と改名するとともに、5月6日(金)、旧学舎跡地に新本館をオープンさせました。

「関西医科大学
総合医療センター」
という名称に込めた思い。

10年前は「関西医科大学附属病院」という名前でした。その後、枚方に本院が移ったので、区別しやすい名称にするという理由で地名を名称に入れませんでした。しかし、本院とは違い、私たちの中心軸が研究や教育ではなく、医療だということを確認するとともに、今回「滝井」という地名を外すことにより、大阪北東部の広いエリアに密着した医療センターでありたいという思いも込めています。

さらに「総合医療センター」という名のもとに、臨床医が医療の意味を常に考えて患者さんに接してほしい。本当

大切な人を受診させたくなる
病院かどうか。

総合医療センターが目指しているのは建学の精神である「慈仁心境」に則り、地域に密着した患者さん本位の医療センターです。連携各科がチーム医療を実践するため、22のセンターを有しています。

「大切な人を受診させるなら、この病院がいい」と思っていただけのように、医療の原点を見つめながら、新本館をオープンさせました。

提供しながら、専門性の
高い医療を追求。

地域密着の大きな課題のひとつとして、救命救急センターの充実を図りました。ICUが8床から14床になるほか、新たにGICU(総合集中治療室)を設置。世界初の機能を持つVVR/CTを備えたハイブリッド手術室を有し、断らない救命救急センターの姿勢をこれまで通り貫いています。心臓血管病センターは診療教授の招聘を含め、更なる充実を目指します。がん治療に関

の医師とは何か、本当の看護師とはどうあるべきか、病気を治すというだけでなく、患者さんにとって何が必要かを知っている医師であり、看護師であってほしい、という思いも、この名称に込めているのです。

2010年より、リエゾン医療を重視してきたのは、そうしたい思いとつながっています。ひとことという病と向き合う患者さんの心のケアを重視する医療を意味します。

奇跡のような
スムーズな移転と
新本館のオープンを実現。

4月30日(土)から5月4日(水)まで5日間をかけて医療機器の移設を行い、5月3日(火)から5月5日(木)の3日間で219人の患者さんの移設を無事完了。5月6日(金)に新本館のオープンを実現することができました。スタッフ全員が一丸となってアクシデントを起こさないように、入院患者さんには最小限の負担で済むようプランを練り、工夫を凝らし、細心の注意を払いながら実行した結果がもたらした奇跡に近い完璧な移設、移送だったと自負しています。

してはPETセンター、内視鏡センター、肝臓病センター、プレストセンター、甲状腺外科センター、化学療法センター、がん治療・緩和ケアセンターが高度医療を実践します。高齢化社会への対応としては、遠方より年配の患者さんが多く来られる、脊椎神経センター、人工関節センター、網膜硝子体センター、リハビリテーションセンター、健康科学センターでは、健康長寿を延ばすことをスローガンにしています。

外来診療では患者さんの利便性と負担費用軽減を図るため、院内調剤に変更しています。

ハード面でとくに注力したのは手術室です。11室を有し、回収廊下で患者さんと不浄な物を分離し、3D画像で行う内視鏡専門手術室、関西初の輻射熱式空調を備えた眼科専門手術室など最新の設備を整えました。



●新本館正面玄関

2階までの吹き抜けを利用し、正面を全面ガラス張りしていますが、直接の陽射しは、玄関の大きな庇が遮り、優しい光だけを取り入れています。



●新本館の入口

赤を使った表札スタンドと掲示板が印象的です。



●院内調剤窓口



●新本館4階にある屋上庭園

リエゾン医療を重視してきた 実績と成果を生かして。

患者さんの心身のケアに 努めるリエゾン医療を さらに進化。

私たち総合医療センターの大きな特長は、精神科病棟を独立して有していること。この精神科が推進する「リエゾン精神医学」を実践し、高度医療の隙間に潜む患者さんの不安、恐れ、失意などを軽減し、安心して医療を享受できる環境をつくる努力をしていることです。リエゾン医療チームは救急救命センターの中に設置され、あらゆる診療科と連携をとりながら、

治療と心身のケアを同時に行う医療を実現しています。こうした取り組みの延長として、本年1月、大阪府自殺未遂者支援センター（IRIS アイリス）の本部を

救急救命センター内に設置し、関係機関との情報共有や連携を通じて、自殺未遂者本人と家族のための支援ネットワークを構築しています。先進医療とともに精神的なケアに力を入れているのは、当センターならではの取り組みです。

**平成30年のグランドオープンを目指して北館、南館の
リニューアルは今も続いています。**

5月4日（水）から改修工事がスタートした南館の完成は平成28年10月16日（日）を予定し、北館は7月3日（日）に完成予定です。旧本館の解体は5月9日（月）にスタートして、翌29年11月30日（木）くらいには完了する予定です。1年半も期間を要するのは、現在も病棟の一部に患者さんが残っておられるからです。まだリニューアル工事が続いているという緊張感をもって私たち管理者は活動しています。緊張感というのはリニューアルが終わるまでは患者さんにも職員にも、多少なりともご不便をおかけしているという張り詰めた気持ちや配慮を持ち続けるということなのです。

その後、地下連絡道というトンネルができ、北館と南館が繋がりが、施設整備は完了します。ホスピタル

ルガーデンは各館の工事了後に整備に入り、2年後の平成30年4月にグランドオープンを迎えます。

●グランドオープンまでのスケジュール

南館改修	平成28年5月4日（水）～平成28年10月16日（日）
北館改修	平成28年5月11日（水）～平成28年7月3日（日）
旧本館解体	平成28年5月9日（月）～平成29年11月30日（木）
地下連絡道整備（北ルート）	平成28年8月16日（火）～平成29年2月28日（火）
地下連絡道整備（南ルート）	平成28年10月16日（日）～平成29年9月15日（金）
ホスピタルガーデン整備	平成29年3月16日（木）～平成30年4月15日（日）
グランドオープン	平成30年4月



●ホスピタルガーデン
さわやかな風が通り抜ける中庭は入院患者さんや外来患者さんの憩いの場。新本館と北館・南館が3方を囲んでいます。



●機能的に配置された外来受付



●診察室前廊下



●内視鏡専用手術室（2室）



●世界初IVR/CTを備えたハイブリッド手術室（来春完成予定）



●新しい病室
すべて4床室にし、プライベートを守ることでゆったりとしたレイアウトになっています。

心臓血管外科

診療部長 着任

平成28年 4月1日



心臓血管外科 診療部長
診療教授
細野 光治

心臓血管病センター 立ち上げのために。

3月までは大阪市立大学医学部の心臓血管外科准教授をしておりました。関西医科大学総合医療センターの心臓血管病センター立ち上げに際して、心臓血管外科の充実を図る意図で教授選の公募があり、センター長の川副浩平教授から市立大の柴田利彦教授を通じてお声をかけていただきました。その後、柴田教授からの推薦をいただき、こちらに着任することになりました。

心臓外科が対象とする疾患は大きく3つの分野に分かれています。1つは弁膜症、2つめが虚血性心疾患といって、狭心症や心筋梗塞などです。そして3つめが大血管の病気で、いずれも数多くの症例を経験してきました。中でもいちはん得意なものをあえて挙げるのであれば、「冠動脈バイパス手術」に

得意分野をあえて 挙げるとすれば、 「冠動脈バイパス手術」。

心臓外科が対象とする疾患は大きく3つの分野に分かれています。1つは弁膜症、2つめが虚血性心疾患といって、狭心症や心筋梗塞などです。そして3つめが大血管の病気で、いずれも数多くの症例を経験してきました。中でもいちはん得意なものをあえて挙げるのであれば、「冠動脈バイパス手術」になると思います。正式には心臓と直接結ばれる動脈のことを冠動脈といいますが、私たちは略して冠動脈とつけています。その血管が詰まることによって心臓の筋肉に血液がいかなくな

る、その状態によって狭心症か心筋梗塞かを判断します。循環器内科の先生はカテーテルを使って狭い血管を広げる治療をされますが、心臓外科医は血管を新しくどこからとってきて、橋渡しをするバイパス手術をします。患者さんの症状や状態によって、どの方法が良いかを判断し、患者さんにも選んでもらいます。

心臓外科医の醍醐味とは？

次の瞬間死んでいたかもしれないという患者さんが、歩いて元気に帰られるときの感動は外科医として本当に嬉しい瞬間です。患者さんの中には、「こんなに簡単に良くなるのだったら、怖がらずにもっと早く手術をしてもらえばよかった」という方も多いです。そんな患者さんのうれしい言葉を聞けるのも私たちの特権かもしれません。この仕事をやってよかったと実感することは多いです。

自分が患者だったら、 こんな先生に 診てもらいたいかどうか。

心臓外科の医療は日進月歩です。昨日まではなかった技術で命を救えることがあります。心臓外科医はその最先端の技術を常に身につけていかなければならない仕事です。「心臓外科医は格好いい」という、今から思うと恥ずかしくなるような思いで選択した分野ですが、自分で選んだという覚悟があり

ます。きっかけは人それぞれです。しかし、自分で選んだという覚悟が、心臓外科医としての誇りを汚したくないという思いを生み、あらゆる困難なことを支えるバネになっています。

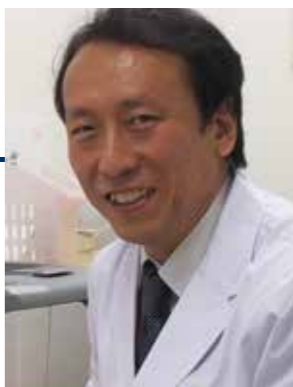
常に高い技術と医療を提供するのは、患者さんの命を預かる心臓外科医なら当然のことです。それを超えて、患者さんにとっての誇りを、私たちが大事にしています。例えば、日曜日に患者さんの様子を見に行くことがあります。手術医としての関わりだけではなく、この手術に立ち向かおうとする患者さんに寄り添い、応援するのも私たちの仕事だと考えています。前向きな気持ちを先生からもらったと思ってもらえるような外科医でありたいと思います。「自分だったら、この先生に診てもらいたいかどうか」。このことをいつも自分に問いかけるようにしています。

細野 光治(ホソン ミツハル) プロフィール

- 学歴
平成6年3月 大阪市立大学医学部卒業
平成12年3月 医学博士 大阪府立大学大学院医学研究科
平成13年5月 アムニエルダム大 Academic Medical Center 留学
平成20年1月 大阪市立大学医学部心臓血管外科科学講師
平成27年10月 大阪市立大学大学院医学研究科 心臓血管外科学准教授
平成28年4月 関西医科大学心臓血管外科診療教授
- 所属学会等
日本外科学会指導医専門医
心臓血管外科専門医
心臓血管外科専門医認定機構指導者
日本循環器学会認定専門医
日本胸部外科学会認定医

助かる命なのに、怖がって手術を受けない人がいっぱいいます。「一度話を聞いてみては」といったご紹介、ぜひお願いいたします。 細野 光治

平成28年 3月1日



呼吸器外科
診療部長

金田 浩由紀

10年ぶりに本格的な治療を再開。

10年前に実施された、附属病院の枚方移転を受け、呼吸器外科も全面的に移設しました。この間、滝井地区では呼吸器外科手術を行っていません。新病院開設に伴い、本年より、ようやく本格的な診療を再開することになり、私が診療部長に就任させていただきました。これまで枚方の附属病院で、肺がんをはじめ胸腺腫、縦隔腫瘍、気胸等、さまざまな手術実績を重ねてまいりました。診療科を再開するにあたり、術後の身体的な負担を軽減した低侵襲手術を中心に、患者さん本位の治療を目指していきたくと考えています。

患者さん本位の治療とは。

治療の特色としては、手術効果の最大化と手術創の最小化という両立を目指しています。傷口が小さければ患者さんへの負担も軽減されます。技術的には難易度も高くなりますが、腫瘍部分の迅速な摘出を実現しながら、術後のスピーディな回復も同時に大切にしています。枚方の附属病院で村川知弘教授から指導を受けた完全鏡視下手術もそのひとつです。こちらでは研修医をいつも抱えているわけではないので、教育的な側面より患者さん一人ひとりにあった個別的な治療に焦点をあてていきたいと思っています。設備的にも充実していますので、いろいろな選択肢の中から、本当に患者さんにふさわしい方法で、治療にあたりたいと考えています。

私たちが大切にしていること。

大事にしていることは、患者さんにはできるだけ専門用語を使わずに、わかりやすい言葉で説明していくということと、EBMの実践を心がけ、患者さんにデータ等を見せながら、一緒

に治療方針を相談していくことです。EBMとは、個々の患者さんの治療に関わる意思決定を、最新かつ最良の根拠（エビデンス）をもとに、押しつけない、偏らない、患者さん本位の一貫性をもって行っていくことです。例えば、予後が長い方がいいと決めつけるのではなく、客観的なデータで術後の経過を治療法に沿って説明した上で、患者さんの選択を尊重するということです。治療法の目的や意義は説明しても、患者さんの価値観や思いを決めつけないことと言ひ換えることもできます。

必要な情報を提示し、治療方針を一緒に考える。

4月に肺がんの摘出手術をした患者さんがいました。手術できる限界までがなが進行した症例で、他の病氣も抱えていたため、呼吸器内科の治療方針は手術をしない、抗がん剤の治療もしない、抗腫瘍的な治療は何もしない、症状が出てきたらそれに対する緩和ケアを行うという方針でしたが、念のため外科でも診断を、ということでも診させていただきました。リスクも考えられましたが、手術によってがんをきれいに切除できると診断しました。高齢の患者さんでしたが、患者さん本人がその可能性にかけてみたいということでした。結果、手術ですべての腫瘍を切除でき、術後の経過も順調です。このように、内科と外科での診断の違いがあっても、

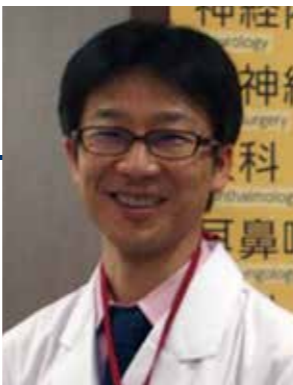
患者さんの意志を尊重して治療方針を最終的に決めるということを大切にしています。その患者さんはリンパへの転移等もみられ、ガイドラインでは術後に化学療法を受けると予後の生存率が高くなるというデータがありますが、当初から化学療法はしたくないというご希望でしたので、利点と不利益を説明した上で、患者さんの気持ちを優先し、化学療法はしないことにしました。副作用についても、必ずしも患者さんが思っておられるような症状がでるとは限らないケースもあります。常に最新の医療情報をお伝えした上で、患者さんの意思を尊重するということが大切になっています。

金田 浩由紀(カネダ ヒロユキ)

プロフィール

- 学歴
 - 平成9年3月 関西医科大学 卒業
 - 平成17年3月 医学博士(関西医科大学の学位を授く)
- 職歴
 - 平成11年4月 静岡日本赤十字病院 外科
 - 平成14年4月 カナダUniversity of Toronto, Toronto General Hospital, Thoracic Surgery Research Laboratory/Chief
 - 平成17年4月 関西医科大学胸部心臓血管外科 助手
 - 平成18年1月 関西医科大学附属枚方病院 呼吸器外科
 - 平成23年4月 関西医科大学胸部心臓血管外科 講師
 - 平成28年3月 関西医科大学附属滝井病院 呼吸器外科部長
 - 平成28年7月 関西医科大学総合医療センター 病院准教授
- 所属学会等役職
 - 日本呼吸器外科学会 (評議員、呼吸器外科専門医)
 - 日本呼吸器内科学会 (評議員、呼吸器内科学専門医)
 - 近畿外科学会 (評議員)
 - 日本肺癌学会 (評議員)
 - 日本呼吸器内科学会 (気管支鏡指導医、気管支鏡専門医)
 - 日本肺癌学会 (評議員)
 - 日本気胸・薬毒性肺炎疾患学会 (評議員)、等

平成28年 4月1日



神経内科
診療部長

中村 正孝

3年ぶりの本格的な再スタート。

神経内科はもともとこちらの旧附属滝井病院だけで診療を続けていた診療科でした。3年前に関西医科大学の新学舎が枚方に完成したのを機に、本院に神経内科を移し、医局スタッフ全員が移動しました。その後の3年間は週2回の初診のみを行い、入院の必要がある患者さんには、枚方へ移っていただいていた。ですがこの度、新本館のオープンをきっかけに、神経内科の本格的な診療を再スタート

させることになりました。枚方では主に脳卒中と一般神経内科を、こちらでは神経難病と呼ばれる病気を中心に診るようになっています。

神経内科とはどんな病気を扱うのか。

心療内科や精神科と混同されていることもあり、意外と知られていないようです。精神科は主にうつ病や躁病など精神的な問題を扱い、心療内科は心身症を主に扱います。精神的な問題や心理的な問題からではなく、脳や脊髄、神経、筋肉に疾患があり、体が不自由になる病気を扱うのが神経内科です。当科では神経内科の対象疾患すべてを扱いますが、とくに神経難病と呼ばれるものに重点を置いています。神経難病とは、はっきりした原因や治療法がないもの、具体的に運動ニューロン病、脊髄神経変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、パーキンソン病、進行性

核上性麻痺などがあります。これらの疾患は根本的に直すことは難しいけれど、リハビリテーションを組み合わせることで、日常生活を改善する治療は可能です。

他の診療科にはない神経内科の醍醐味とは。

他の診療科と違うところは、脳や神経、筋肉の疾患がとて広範囲で、診断のつかない難病も多く抱えていることです。どう治療すればいいかがはつきり決まっていななものも多いといえるかもしれません。研修医のときに感じたのは、循環器や消化器系は決まったルーチンな検査や治療のお手伝いをするといったイメージが強かったのですが、神経内科はバラエティに富んでいると感じ、さらに診断ができていない患者さんが多いことにも驚いたものです。当時、慣れないなりに検査をして、誰も見当がつかなかった病気を診断できたとき、教授でも見たことがないような症例を発見したこともあり、とてもやりがいを感じたことを覚えています。

治療法や原因が解明されていない難病を扱っているからか、神経内科には謎を1つずつ解いていくよ

うな醍醐味があります。

神経内科で、これから目指したいこと。

新たに難病指定されたものの中には、神経内科が扱う病氣も多く含まれています。さらに北河内エリアでの患者さんも増えています。3年前のように、医局全員が枚方の本院へ移動することで、他のエリアの患者さんにご負担をかけることがないよう配慮しました。地域にしっかりと根をはった治療を行うとともに、神経難病のケアと治療実績を積み重ね、新たな治療法の開発にも、力を入れていきたいと考えています。

中村 正孝(ナカムラ マサタカ)

プロフィール

- 職歴
 - 平成15年10月 天理よつ相談所病院 神経内科 医員
 - 平成21年12月 関西医科大学 神経内科 助教
 - 平成23年6月 米国Mayo Clinic Jacksonville Department of Neuropathologyへの留学
- 所属学会等役職
 - 平成28年4月 関西医科大学 神経内科 講師
 - 日本内科学会 (総合内科専門医)
 - 日本神経学会 (指導医・専門医)
 - 日本神経病理学会
 - 日本脳卒中学会
 - 日本神経治療学会

関医訪問看護ステーション・香里 香里オープン

平成28年 4月1日

管理者 保健師
聲高 英代 (コエタカ ハナミ)



関医訪問看護ステーション・香里

現在は看護師3名、スタートして2カ月間で早くも20人の利用者さんと契約させていただきました。将来的には200人のご利用を構想しています。事務所は広く、十分な駐車場スペースを確保したのはそのためです。職員も20名程度まで増やす予定です。

- 退院後、ご自宅での療養がご心配な方
- 自宅でのリハビリを希望される方
- ご自宅での医療機器の使い方や、ご自身での医療処置が不安な方
- 服薬管理が不安な方
- 最期までご自宅での療養を希望される方

何でもお気軽にご相談ください！



- 電話 072-833-1222
- FAX 072-833-1200
- 営業時間 月曜～金曜 9:00～17:00
第1.3.5.土曜 9:00～13:00
※利用者様には日曜祝日も24時間救急対応しています。
- 住所 〒572-0082 大阪府寝屋川市香里本通町9番7号
- 訪問地域 寝屋川市、枚方市
※上記以外の地域もご相談ください。
- アクセス ●「香里園」駅(京阪本線)より徒歩3分
●関西医科大学香里病院より徒歩1分



大病院がもつ訪問看護ステーションとしての役割を担います。

2025年には3人に1人が高齢者となり、2035年には人口が減ると推計されています。関西医科大学は、変化する医療体制の中で地域において新たな役割を担うために訪問看護ステーションを開設しました。訪問看護ステーションは大学と地域医療・福祉をつなぐ場となります。

全国的に訪問看護ステーションをもつ大病院が増えています。関西では、本学の他に大阪医科大学、兵庫医科大学が訪問看護ステーションを開設しています。

大病院がもつ訪問看護ステーションは、大学や附属の病院と連携することで、既存のステーションがもつ役割に加えて新たな役割を担うことができると考えます。

病院併設に限らず訪問看護ステーションの開設は全国的に増えており、香里病院周辺にも多数のステーションがあります。当ステーションは、地域の医療機関及び近隣のステーションとも連携し、大病院の訪問看護ステーションとして、新たな役割を模索していきたいと考えています。

関西医科大学と地域医療・福祉をつなぐ架け橋となります。

附属の3病院と地域の関係機関の皆様をつなぐ役割を担います。訪問看護師は病院と地域の両方に足を運び、現状を見て、声を聞くことができます。この利点を活かし、これまでに構築されている病院と関係機関の信頼関係をさらに強くする役割を担いたいと考えています。

また、大学・病院と地域をつなぐ役割を担います。行政や関係機関と連携し、地域住民を対象にした講演会や健康教

関西医科大学の3病院との連携、協働により、地域の住民の皆様が安心して安全な継続した看護を提供します。

病院と在宅において継続した看護やリハビリを提供します。訪問看護師は、退院前または外来受診時に、病院の看護師から医療処置の手法や看護ケアについて説明を受け、自宅で行える方法をともに考えます。訪問の開始後は、自宅の様子を病院の看護師に伝え、さらによりよいケアを考えていきます。

病院と在宅とで一貫した看護を受けていただくことができます。

附属の3病院がもつ専門性の高い看護を提供します。訪問看護師は、大学や附属病院で行われる研修等に参加し、専門性の高い技術や知識の習得に努めています。また、病院の専門看護師等から技術や知識の指導を受けたり、同行訪問することで、自宅より専門性の高い看護を受けていただくことができます。

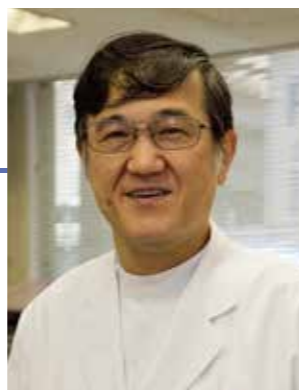
附属の3病院の連携による緊急時の受入体制を整備しています。利用者の急変時には、基本的には香里病院での受入を行います。当院は救急機能を持たないため受入が困難な場合があります。必要がある場合には、附属の2病院での救急受入を行います。

室などを開催する事務局的な役割を担いたいと考えています。大学や病院から地域に専門的な知識や技術を伝えるとともに、大学や病院に対して地域の現状や課題、大学に求められているものを伝える機会といたします。

看護教育の場となります。

関西医科大学では平成30年の春に看護学部が新設されます。学生の地域看護の教育の場として活用されるほか地域の在宅医療・看護技術の向上のための教育の場としての役割を担っていきたくと考えています。

関西医科大学天満橋総合クリニック 各専門医がそろった 都市型の総合クリニック



外来統括部長
北尻 雅則

クリニックは
日々新しくなっています。

天満橋総合クリニックは、関西医科大学附属病院グループの中では、唯一大阪市内に位置するクリニックです。旧OMMメディカルセンターの設立当初から、時代に先駆けて予防医療の重要性に着目し、がんの早期発見や生活習慣病の予防に大きな実績をあげてまいりました。天満橋総合クリニックとして再スタートしてからは、施設の改装、検査機器の充実を進め、さらに関西医科大学のグループ力を生かして、より高度な人間ドックや健診を行うことが

可能になりました。また、産業医活動も強化し、予防医療センターにふさわしい機能を充実させています。一方、外来部門も念願であった施設のリニューアルを行い、新しくきれいなクリニックに生まれ変わります。診療を継続しながら工事を行っており、まもなく完成の予定です。内視鏡検査室を充実させ、大腸内視鏡検査も視野に目指しているのは
専門医集団による最も
進んだ都市型の総合診療。

外来部門では、北尻雅則外来統括部長（耳鼻咽喉科部長）のもと、内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科の専門医が診療にあたっており、さらに放射線科専門医、超音波専門医、消化器内視鏡専門医が診断支援を行い、当クリニックでほとんどの病気を診ることができま

す。今年から、消化器病専門医で内視鏡診断・治療を得意とする川股聖二医師が新たに加わり診療の幅がさらに広がりました。また、大阪府肝炎専門医

療機関の認定を受けました。耳鼻咽喉科では花粉症に対する舌下免疫療法も開始いたしました。超高齢化社会を迎え、ひとりでの病気をかかえている患者さんが多くなりましたが、ここに来れば、専門医集団による質の高い総合診療を受けることができます。病気の予防から、専門医による診断、治療まで、すべて揃った万全の体制が整っています。

関西医科大学の附属病院のみならず 地域の医療機関と広く連携。

- 北尻雅則（タタシリ マサノリ）プロフィール
- 略歴
 - 昭和52年 関西医科大学 卒業
 - 昭和53年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 入局
 - 昭和53年 大阪赤十字病院耳鼻咽喉科勤務
 - 昭和53年 関西医科大学医学部医学研究科大学院 博士課程（耳鼻咽喉科学専攻）入学
 - 昭和56年 米国 Pittsburg University, Eye and Ear Hospital, Research fellow
 - 昭和58年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 助手
 - 昭和59年 大阪北通徳病院耳鼻咽喉科勤務
 - 昭和61年 関西医科大学附属山形病院耳鼻咽喉科 出向
 - 昭和62年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 講師
 - 平成10年 関西医科大学附属山形病院耳鼻咽喉科 助教
 - 平成11年 関西医科大学耳鼻咽喉科科学教室 准教授
 - 平成19年 関西医科大学附属山形病院 病院教授
 - 平成23年 OMMメディカルセンター 耳鼻咽喉科部長
 - 平成24年 関西医科大学天満橋総合クリニック 外来統括部長（兼耳鼻咽喉科部長）
 - 主な資格
 - 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
 - 日本気管食道科学会専門医
 - 補聴器適合判定医
 - 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医
 - 日本めまい平衡医学会認定めまい相談医
 - 医学博士



小児科 病院教授
谷内 昇一郎

小児科一般外来を
担当しています。

週に2日、火曜と金曜の午前に小児科の一般診療外来を行っています（金曜は第1、第3、第5の週のみ）。専門は食物アレルギーですが、小児科一般診療も長く行ってきた経験もあり、古巣へ戻った思いもあります。小児科医になつて40年近く経ちます。診療外来のレベル向上に少しでもお役に立てればと、科の先生とのカンファレンスやコミュニケーションも大切にしています。



「経口免疫療法 Q&A」(中山書店刊)に続いて出版された「食物アレルギーの考え方（除去からギーの考え方（除去から除去へ）」(中外医学社刊)

専門は食べることで治す
食物アレルギーです。

食物アレルギーという言葉は、最近こそよく聞きますが、20数年前にはなかった分野です。アトピーの原因を特定できるようになり、その食物を摂らない治療（除去）が進められてきた分野です。摂らないことでアトピーが治った小児も確かにいます。しかし原因となる食物を摂らない小児は、食物アレルギーがますます重症化します。これを根本的に治す経口免疫療法が私の専門です。

- 谷内 昇一郎
(タニウチ ショウイチロウ) プロフィール
- 昭和64年3月 日本医科大学卒業
 - 昭和64年5月 関西医科大学小児科学講座入局
 - 昭和65年4月 関西医科大学大学院 博士課程小児科学専攻
 - 昭和69年3月 関西医科大学大学院 博士課程小児科学終了
 - 昭和69年4月 関西医科大学小児科学講座 助手
 - 昭和61年7月 カリフォルニア大学デービス校医学部小児科学・病理学にアシリエイト・スペシャリストとして留学
 - 平成6年3月 関西医科大学小児科学講座 講師
 - 平成15年9月 関西医科大学小児科学講座助教授、関西医科大学再生医学難病治療センター助教授
 - 平成16年1月 関西医科大学附属滝井病院 小児科部長
 - 平成19年4月 関西医科大学附属滝井病院 小児科病院教授
 - 平成24年4月 関西医科大学附属滝井病院 感染対策部長
 - 平成26年4月 関西医科大学附属滝井病院 小児アレルギー科科長
 - 平成28年4月 関西医科大学香里病院 小児科診療部長
 - 日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会指導医、専門医

香里病院の新任ドクターです。 どうぞよろしくお願いいたします。

頑張ります！ 内科 丸田 輝太郎 (マルタ キタロウ)	地域のお役に立てるように！ 内科 榎木 一仁 (サワラギ カズヒコ)	いのちだいじに！ 内科 今井 開 (イマイ カイ)	宜しくお願い申し上げます！ 内科 宮地 理彦 (ミヤジ ミチヒコ)
爽やかな目覚めを心がけています！ 麻酔科 串田 温子 (クシダ アツコ)	信頼される泌尿器科医に！ 腎泌尿器外科 吉田 崇 (ヨシダ タカシ)	頑張ります！ 整形外科 千原 一久 (チハラ カズヒサ)	未来ある子供のために！ 小児科 副島 和彦 (ソエジマ カズヒコ)